

令和6年度総会報告

5月26日日曜日に高鷲文化財保護協会総会を高鷲町民センター研修室で行いました。最初に西協会長が挨拶され、協議事項に入りました。その内容は①令和5年度事業報告及び収支決算報告について(資料略、承認)、②規約改正案(規約第5条の年会費を1500円→2000円とする。承認)、③役員改選(全員再任、承認)、④令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)(別紙略、事業費を44600円、研修費を44000円に訂正する。承認)、⑤その他その後水上副会長の閉会の挨拶で終了しました。

城の歴史

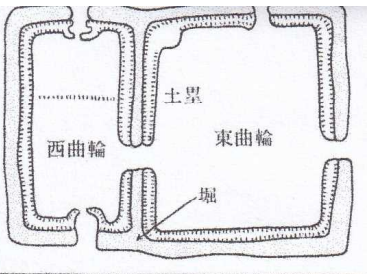
城とは軍事的目的をもって築かれた防御施設のことです。城の文字は土篇に成の旁で構成された土で作った施設の意味ですが、時代によってかなりの違いがあります。

〈古代の城柵〉

古代の城は、「き」と呼び、城もしくは柵の字をあてました。『日本書紀』によると、6世紀末に物部氏が稲城を築いて蘇我氏を防いだとありますが、文字から判断すれば稲穂を積み上げた堡塁のようです。一方、木材を骨組みした柵状の施設であるという説もあります。

7世紀後半、朝鮮との関係が急迫になりますと、東北経営との進展とにともなって外敵防備のための城柵がつけられました。西日本では朝鮮式山城が多数つけられました。664年の太宰府防衛のためにつけられました水城と、翌年の大野城・椽城はその典型であります。水城は土塁の全面の堀に水を蓄えて敵を防ごうとしたもので長さ1.2km、高さ13m、基底部幅80mに及ぶ大土塁が造られました。これが現在に残る水城の大堤です。大野城・椽城は山の尾根に沿って長大な土塁・石垣を築いた朝鮮式山城で、こうした山城は瀬戸内海周辺の各地に多く造られました。

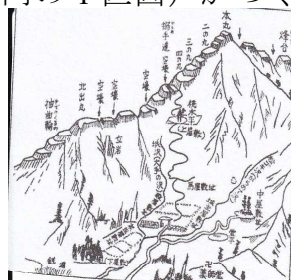
一方、東日本では台地もしくは平地に城柵が造られました。最近の調査では宮城県の大賀城、岩手県の伊沢城・徳丹城などの外郭施設には築地が無かったことが分かり、純軍事的施設ではなくて、むしろ地方行政庁の性格が強いと考えられています。



武田氏瀨戸ヶ崎館址平面図(山梨県)

〈中世の館と山城〉

13世紀後半、モンゴル来襲にそなえ、博多湾岸に高さ1.5m、長さ16kmに渡って築かれた石塁を除けば、中世の城は平時の館と戦時の山城とに特徴付けられます。鎌倉武士の館は正方形ないし長方形の単純な区画の四周に土塁や濠を巡らし、門の上に櫓を上げて防備する程度のものでありました。中世末期の戦国大名武田氏の居館もこの系統でした。戦時の防備としての山城は、天険を利用した山丘につけられました。南北朝時代、楠木正成が立て籠もった河内の千早城などはその例ですが、中世末期になると、平時は山麓の居館に住み、戦時には山頂の城に立て籠もるようになっていました。下図の例もその一つですが、多くの郭(曲輪、城内の1区画)がつけられて、城郭の名に値するものとなりました。



新潟県坂戸城概念図



鷲見城(林春樹作図)

越後の上杉氏の春日山城や越前の朝倉氏の一乗谷城、美濃郡上の東氏の篠脇城は有名です。遺跡は国の史跡に指定され、居館社・庭園社などが整備されています。

〈近世の平山城・平城〉

近世は日本城郭の発達・完成期であり、平山城と平城とによって特徴づけられます。

平山城は 20~100m ほどの丘陵に築かれ、周囲の平地をとりいれた城で、城主の平常の居館と戦時の軍事的防塞の機能をあわせ持ったものです。戦国の動乱を通じ、各地の大名は築城に意を注いだり、鉄砲の使用による戦法の変化と、領国の支配の利便性とから城は山上から丘陵部へ下がり、より拡大された規模の平山城となっていくのです。築城技術も進んで堅固な高い石垣、広く深い水壕、堅牢な城門や櫓を構え、さらに物見台の機能と城主の権威とを示す壮麗な天守閣を備えるようになったのです。今は失われた織田信長の安土城をはじめ、犬山城・彦根城・姫路城・松山城・高知城など日本を代表する名のある城は平山城です。なぜなら平山城は、城地が自然の要害に人工の塁壕を加えたところにつくられ、外観の美しさと城主の威厳を示すのに十分な条件を持つからと考えられます。

平城は軍事上の要害よりも政治上の利便性を主眼として平地に築かれた城です。江戸時代に入って領国支配の拠点としての機能が一層重視されると、平地に城を構え、城下町をその内部と周辺部に取り込むようになりました。防備施設の大部分は人工的に築かれた石垣・土塁・水壕によるので莫大な経費を必要としましたが、領主にとってはそれ以上に領国経営の必要性を感じたからです。江戸城、大阪城、名古屋城、松本城は平城の典型です。

これら近世の城郭は、桃山時代から江戸初期ごろに異常な発達を見せました。しかし徳川氏の政権が安定すると、武家諸法度で城郭修築の規制が行われ、それ以後は前代の継続・維持にとどまりました。

城郭の構築は、縄張り(地形の選定と城郭配置)・普請(石垣・堀の築造などの土木工事)・作事(殿館建築工事)の3段階を経ます。

そのうち縄張りは、まず城地の選定にかかり、地形に応じて郭(曲輪)の配置を考えます。普通は本丸・二の丸・三の丸と参拾の郭を設けるのが原則ですが、必要に応じて多くの郭をおくことがあります。

郭の配置には、輪郭式、梯郭式、連郭式などが基本形式としてあります。



犬山城：城は西と北に木曾川を控えた旧領城にある。濃尾平野を見渡す最北部に本丸を設けている。現存最古の天守閣



松本城：平城で、5層6階の天守に小天守と櫓が直結している。防御のために窓が少なく、矢狭間が各所にあり、石落しがある。石垣の傾斜が緩く、安定感があります。

高鷲文化財保護協会会員研修会案内 (皆さん参加しましょう)

研修箇所：鷲見城社

日時：平成6年6月15日(土)9:00集合向鷲見、大手道上り口

内容：城社の現状調査